

# 県内研修報告

## 研修部 小野 英治

(会員 弥生町井崎)

今年の佐伯史談会県内日帰り研修は、四月五日に実施

した。それまで連日の雨

天がこの日は好天に恵ま

れ、予定通り安心院町・

院内町・豊後高田市・日

出町の見学ができて喜ん

でいる。

今回の研修では一般に

あまり知られていない史

跡と、最近注目される町

づくりの視察をとり入れ

たことである。運転手を



佐田神社

含め総勢二十一名は、マイクロボスとしては最適な人数でもあった。

最初に訪れた安

心院町の佐田神社

は、幕末に民間人

で初めて反射炉を

つくり大砲を鑄造

した地であり、帆

足万里に学んだ賀

来<sup>これ代付</sup>惟熊父子の功績

を記した反射炉碑が建ち、反射炉に使用されていた耐火煉瓦壁もある。

賀来氏は大神惟基を祖とし、戦国期には大分郡の賀来城主であった。享禄年間(一五三〇頃)安心院の佐田へ居住したといわれ、江戸時代当地は島原領であったが代々大庄屋をつとめ、農業・酒造業・鋳物業・紙漉等多角的経営で成功。明治期には県内有数の資産家であったといわれるが、鋳物業が大砲鑄造を容易にさせ、資金もあ



反射炉の耐火レンガを利用した塀

り、帆足万里に学んだことは当時の社会情勢に通じて島原藩の協力をとりつけたことにつながる等、好条件が重なったようである。佐伯藩にも惟熊の第四子惟舒（これの孫）が招かれて三年で大砲二十二門を鑄造、女島の台場備砲となっている。

安心院町では竜王地区の鑊絵（こてえ）も見学したが、妙菴寺は本堂内壁にあるのが特徴で、他はすべて外壁に設けられている。ここは龍王城のあった地で、大友義統が島津軍に戸次川合戦で敗れ、ここに逃げ込んだことは有名であるが、創築は元の来襲後（一三〇二年頃）、宇佐大宮司公泰が宇佐八幡の神意によって神楽城を築いたのにはじまり、安心院十六ヶ村の地頭職を兼ねて安心院氏の始祖となり、建武中興の頃（一二三二）、豊前守護代宇都宮冬綱が借用して抱



安心院町 竜王地区の鑊絵（こてえ）

城とし、龍王城と改称。室町期中頃（一四六九頃）、豊後守護職大友政親が進駐し、豊前諸豪族を攻める拠点とした。

戦国初期（一五三二）、大内義隆が豊前守護職を兼ね重臣城井三郎兵衛尉が進駐して大友氏に備え、後大友義鎮が毛利勢駆逐のためここに進駐、豊前探題を置いている。関ヶ原役後（一六〇〇）、豊前領主細川忠興が改築し、弟細川幸隆が一万石で城主（一六〇三）となったが五年後に死亡、妙菴寺は幸隆公の廟所がある。

本堂も当時の建築で、寺の奥様より詳細な説明をいただき、当時の鳥瞰古図を拝見する。曲輪が守備する武将名となっているのは注目される。

なお、細川幸隆没後は城代長岡氏が二十四年統治、松



安心院町 妙菴寺で説明をうける

平重直が三万七千石で七年、高田松平氏所管六年、幕府直轄二十四年、高原松平氏所管二百年で明治維新となった。山頂部の曲輪はかなり破壊されているが、山腹部の大手門址石垣はよく残っている。

次に訪れた院内町は、石橋の多さでは全国一といわれる。ここでは代表的な五連アーチ橋で、貴婦人と形容されるスマートな鳥居橋を見学、感動する。弥生町にも宇藤木橋他数基の石橋が、あるがこれも原材料の凝灰岩の



院内町 鳥居橋



日出町 深江のお茶屋



日出町鬼門櫓（東北隅の鬼門左隅を欠く）

豊富なことに起因すると考えられるが、現在、その技術は城石垣の修築（入吉城・八代城等）に生かされ、竹田の人が従事しているのである。

昼食を豊後高田市でとり、女性ボランティアガイドさんの案内で昭和の町を散策する。昭和初期の街並みを生かした商売上手には感動した。佐伯市の仲町等も、これを参考に活性化していただきたいものである。ただ気にかかったのは、高田城が忘れられたように感じる。ここ

には城堀もよく残り、特に江戸時代の島原領豊州陣屋址の石垣は、切込ハギの見事なものである。

最後は、日出町深江の日出城主が領内巡視等で宿舎に利用した御茶屋を見学する。荒廃して、近く取り壊す予定とのことである。



島原領豊州陣屋石垣前で

次に訪れた日出城本丸より移築した二重の鬼門櫓は五角形の平面をもつ特異なもので、共通して崩壊寸前である。

貴重な文化財であるだけに、保存はできないものかと思いつきながら、一日の研修と終了した。



龍王城大手門址石垣（安心院町）